

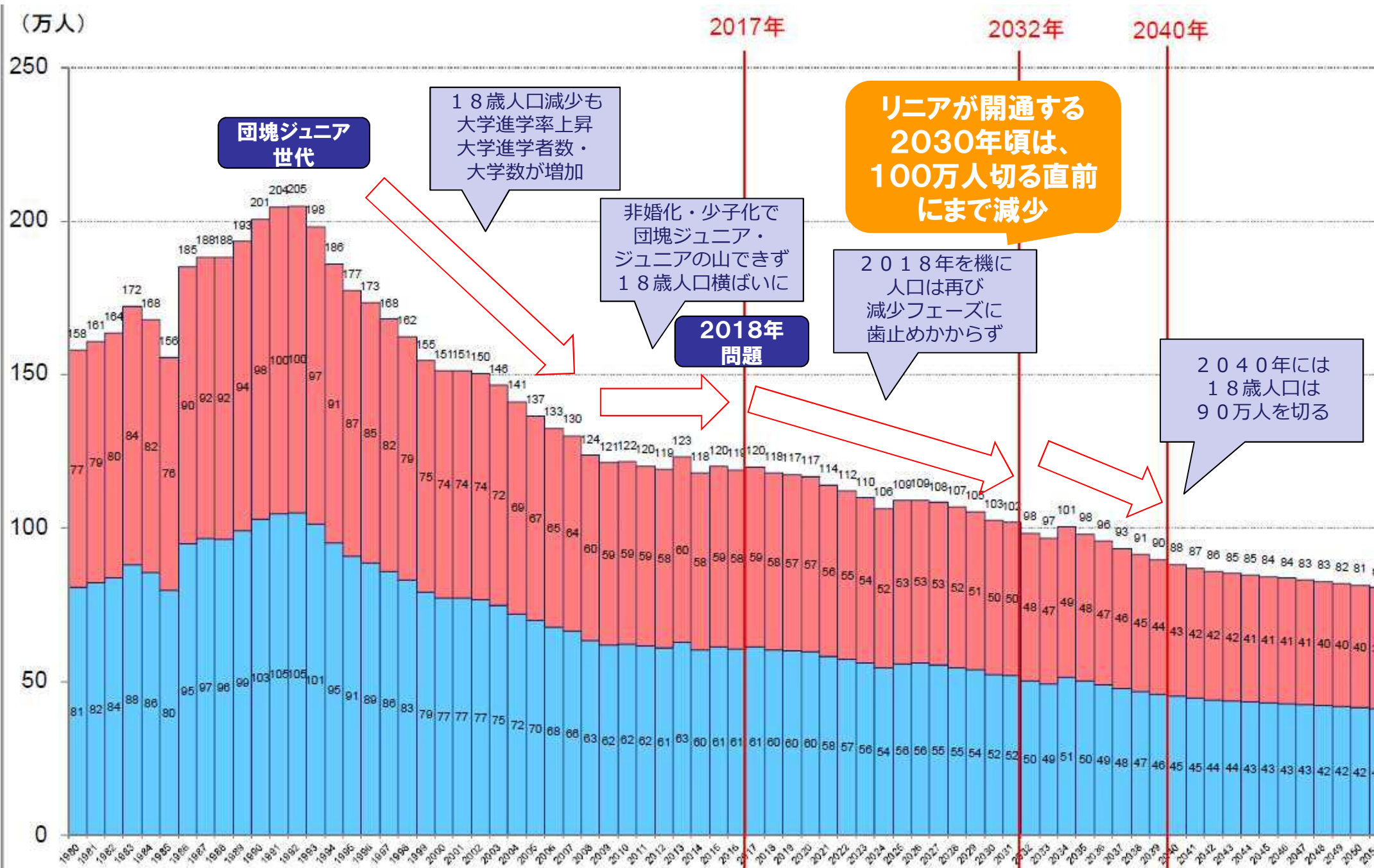
若者の進路選択の状況

～データで見る中京圏の状況と考察～



2017. 11. 27
リクルート進学総研所長
リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林 浩

18歳人口の推移・将来推計(全国)



団塊ジュニア世代

18歳人口減少も
大学進学率上昇
大学進学者数・
大学数が増加

非婚化・少子化で
団塊ジュニア・
ジュニアの山できず
18歳人口横ばいに

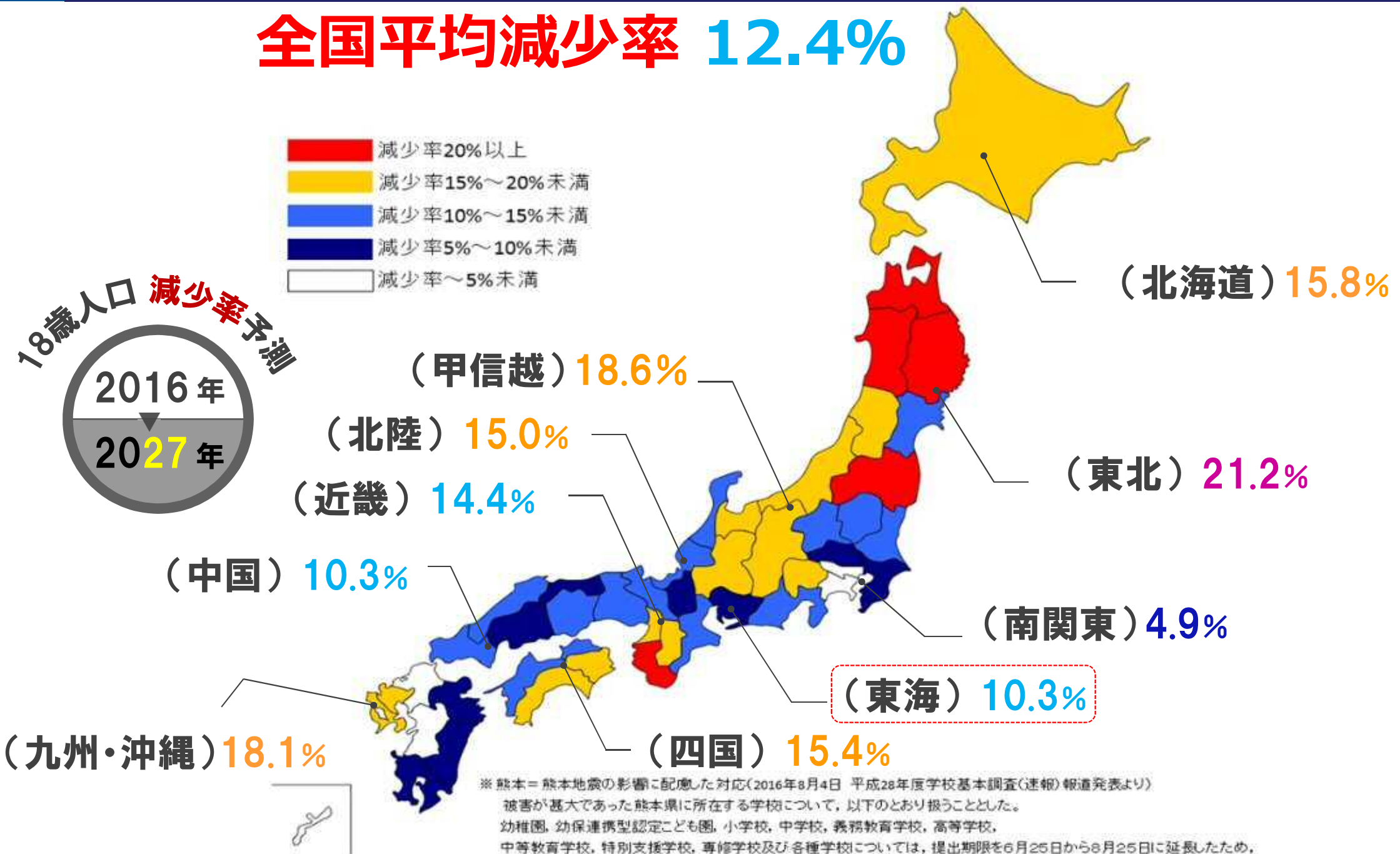
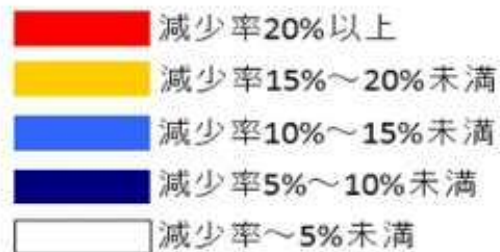
2018年
問題

リニアが開通する
2030年頃は、
100万人切る直前
にまで減少

2018年を機に
人口は再び
減少フェーズに
歯止めかからず

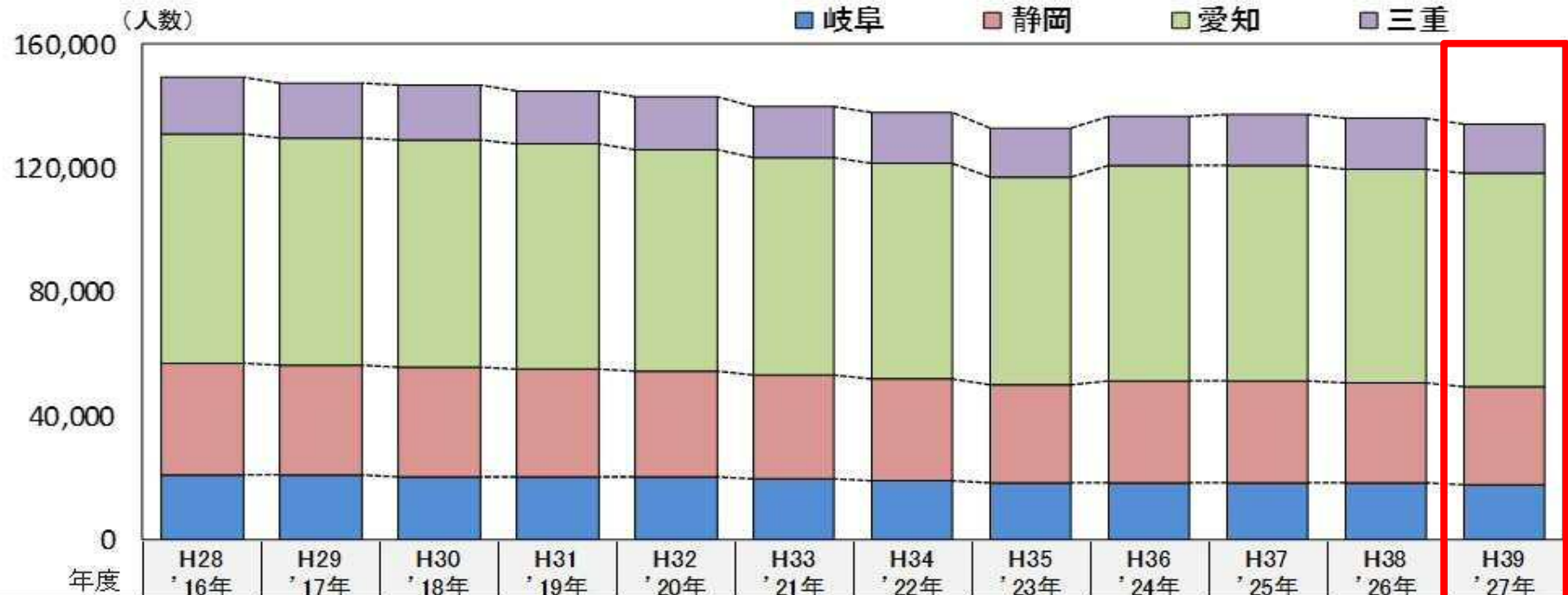
2040年には
18歳人口は
90万人を切る

全国平均減少率 12.4%



※熊本=熊本地震の影響に配慮した対応(2016年8月4日 平成28年度学校基本調査(速報)報道発表より)
被害が甚大であった熊本県に所在する学校について、以下のとおり扱うこととした。
幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、
中等教育学校、特別支援学校、専修学校及び各種学校については、提出期限を6月25日から8月25日に延長したため、
速報に反映されていない。

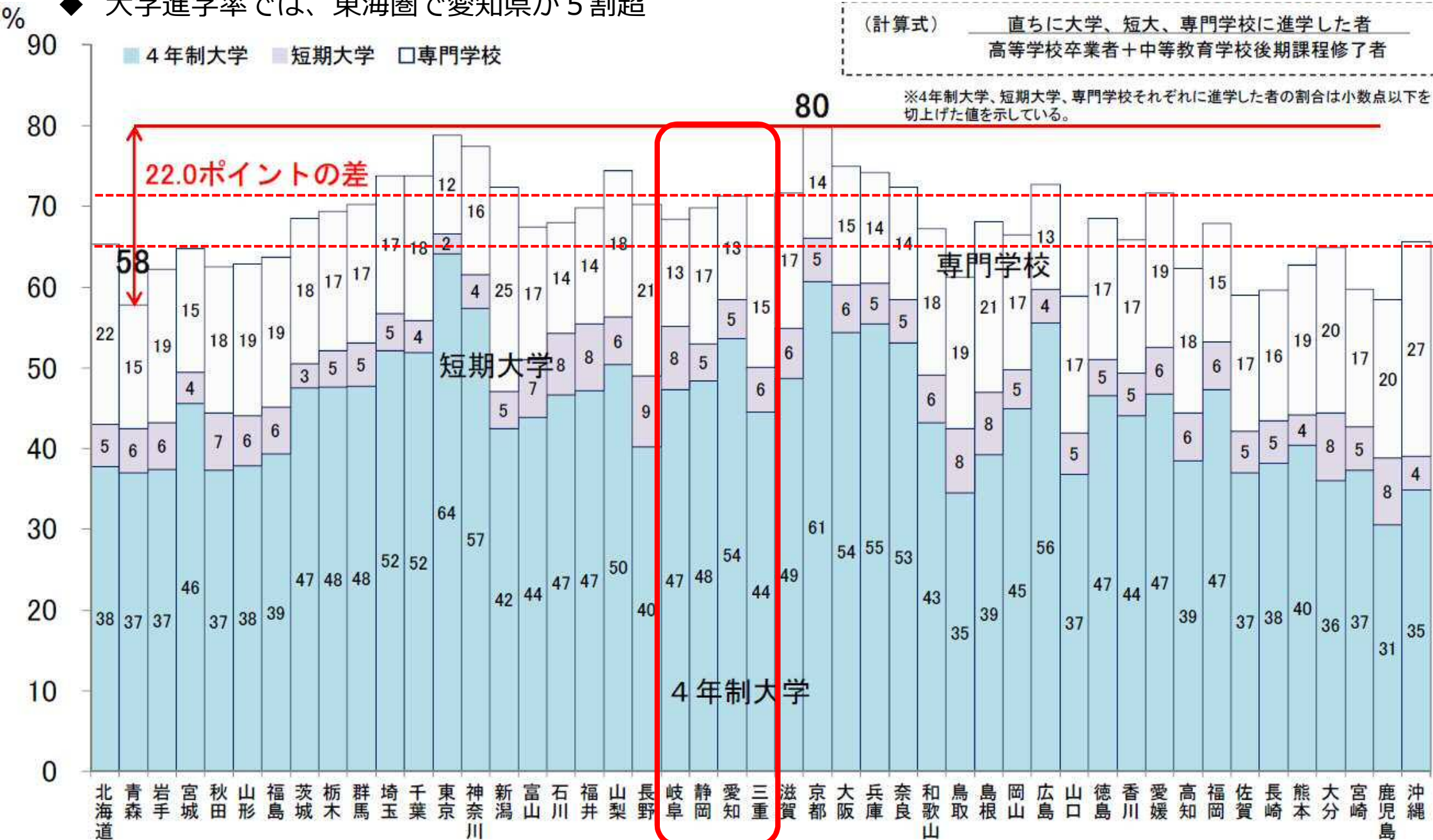
18歳人口予測(全体：東海：2016～2027年)



年度		H28 '16年	H29 '17年	H30 '18年	H31 '19年	H32 '20年	H33 '21年	H34 '22年	H35 '23年	H36 '24年	H37 '25年	H38 '26年	H39 '27年
東海	人数	149,716	147,713	146,924	145,387	143,448	140,094	138,361	133,227	137,164	137,429	136,068	134,276
	割合	100.0	98.7	98.1	97.1	95.8	93.6	92.4	89.0	91.6	91.8	90.9	89.7
岐阜	人数	20,795	20,705	20,491	20,071	20,006	19,397	18,808	18,307	18,617	18,322	18,219	17,634
	割合	100.0	99.6	98.5	96.5	96.2	93.3	90.4	88.0	89.5	88.1	87.6	84.8
静岡	人数	35,989	35,474	35,245	35,096	34,638	33,860	33,393	31,995	32,747	33,097	32,290	31,743
	割合	100.0	98.6	97.9	97.5	96.2	94.1	92.8	88.9	91.0	92.0	89.7	88.2
愛知	人数	74,550	73,737	73,336	72,722	71,397	70,078	69,597	67,091	69,482	69,862	69,519	69,107
	割合	100.0	98.9	98.4	97.5	95.8	94.0	93.4	90.0	93.2	93.7	93.3	92.7
三重	人数	18,382	17,797	17,852	17,498	17,407	16,759	16,563	15,834	16,318	16,148	16,040	15,792
	割合	100.0	96.8	97.1	95.2	94.7	91.2	90.1	86.1	88.8	87.8	87.3	85.9
全国	人数	1,198,290	1,179,142	1,157,040	1,148,550	1,121,922	1,101,956	1,080,488	1,045,414	1,071,926	1,073,211	1,065,061	1,050,107
	割合	100.0	98.4	96.6	95.8	93.6	92.0	90.2	87.2	89.5	89.6	88.9	87.6

【現状】 都道府県別高等教育機関への進学率

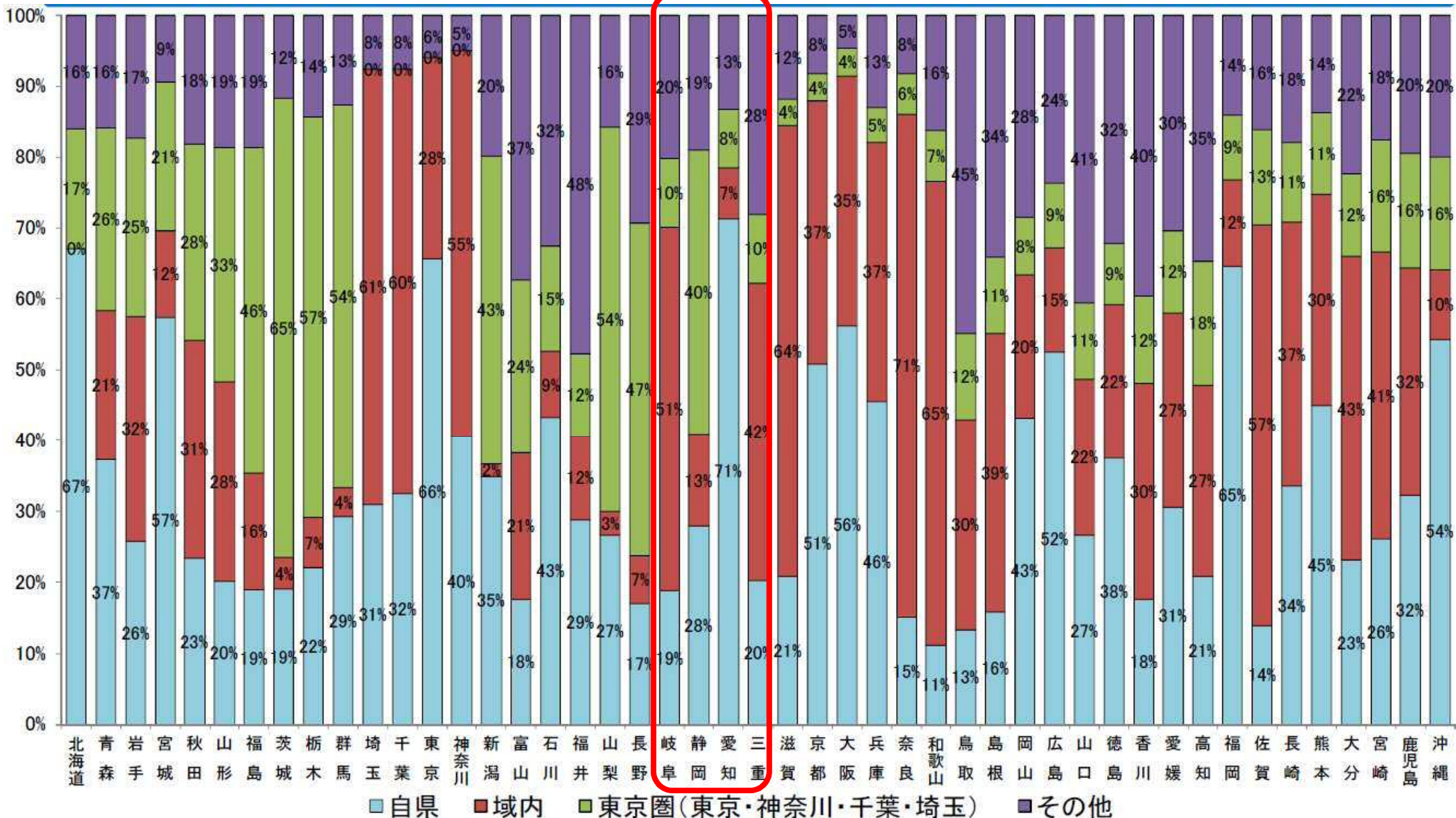
- ◆ 高等教育全体の進学率は、東海圏は65～72%
- ◆ 大学進学率では、東海圏で愛知県が5割超



【現状】 自県、域内の大学にどれくらい進学するのか（地元残留率）

- ◆ 愛知の自県残留率は日本でトップ
- ◆ 静岡は、4割が東京圏に流出

※地域区分：北海道、東北、関東(東京圏除く)、東京圏、甲信越、北陸、東海、近畿、中国四国、九州



【現状】 東海圏の高校生はどこに進学しているのか

- ◆ 愛知の自県残留率は日本でトップだが、流出先は東京がトップ
- ◆ 静岡は、大学は東京に、短大は神奈川に流出
- ◆ 流入では、岐阜への短大進学者が、石川で1位、富山で2位

愛知県



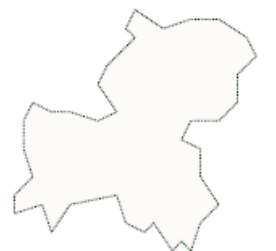
進学流出先

大学 1位東京都(2,104人) 2位岐阜県(1,411人)、3位京都府(1,055人)
短期大学 1位岐阜県(234人)、2位三重県(46人)、3位東京都(42人)

進学流入元

大学 1位岐阜県(4,519人)、2位三重県(3,082人)、3位静岡県(1,951人)
短期大学 1位岐阜県(380人)、2位三重県(249人)、3位静岡県(154人)

岐阜県



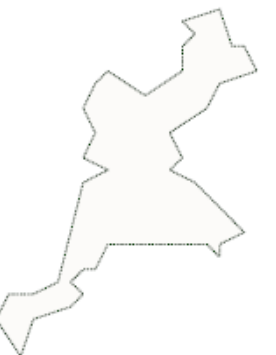
進学流出先

大学 1位愛知県(4,519人)、2位東京都(574人)、3位京都府(339人)
短期大学 1位愛知県(380人)、2位大阪府(13人)、3位静岡県(11人)

進学流入元

大学 1位愛知県(1,411人)、2位静岡県(148人)、3位三重県(127人)
短期大学 1位愛知県(234人)、2位長野県(59人)、3位三重県(48人)

三重県



進学流出先

大学 1位愛知県(3,082人)、2位大阪府(636人)、3位東京都(493人)
短期大学 1位愛知県(249人)、2位大阪府(62人)、3位岐阜県(48人)

進学流入元

大学 1位愛知県(669人)、2位岐阜県(98人)、3位大阪府(98人)
短期大学 1位愛知県(46人)、2位和歌山県(15人)、3位静岡県(11人)

静岡県



進学流出先

大学 1位東京都(3,461人) 2位神奈川県(2,190人)、3位愛知県(1,951人)
短期大学 1位神奈川県(182人) 2位愛知県(154人)、3位東京都(143人)

進学流入元

大学 1位愛知県(636人)、2位東京都(230人)、3位神奈川県(209人)
短期大学 1位長野県(24人)、2位神奈川県(19人)、3位山梨県(14人)

【現状】進学時の地元志向、離れたい高校生は減少傾向

- ◆ ぜひ、地元に残りたい高校生は、若干だが増加している
- ◆ 南関東（61.3%）、関西（55.1%）地元志向が高い
- ◆ 「東北」「北関東・甲信越」「北陸」は「離れたい」が高い

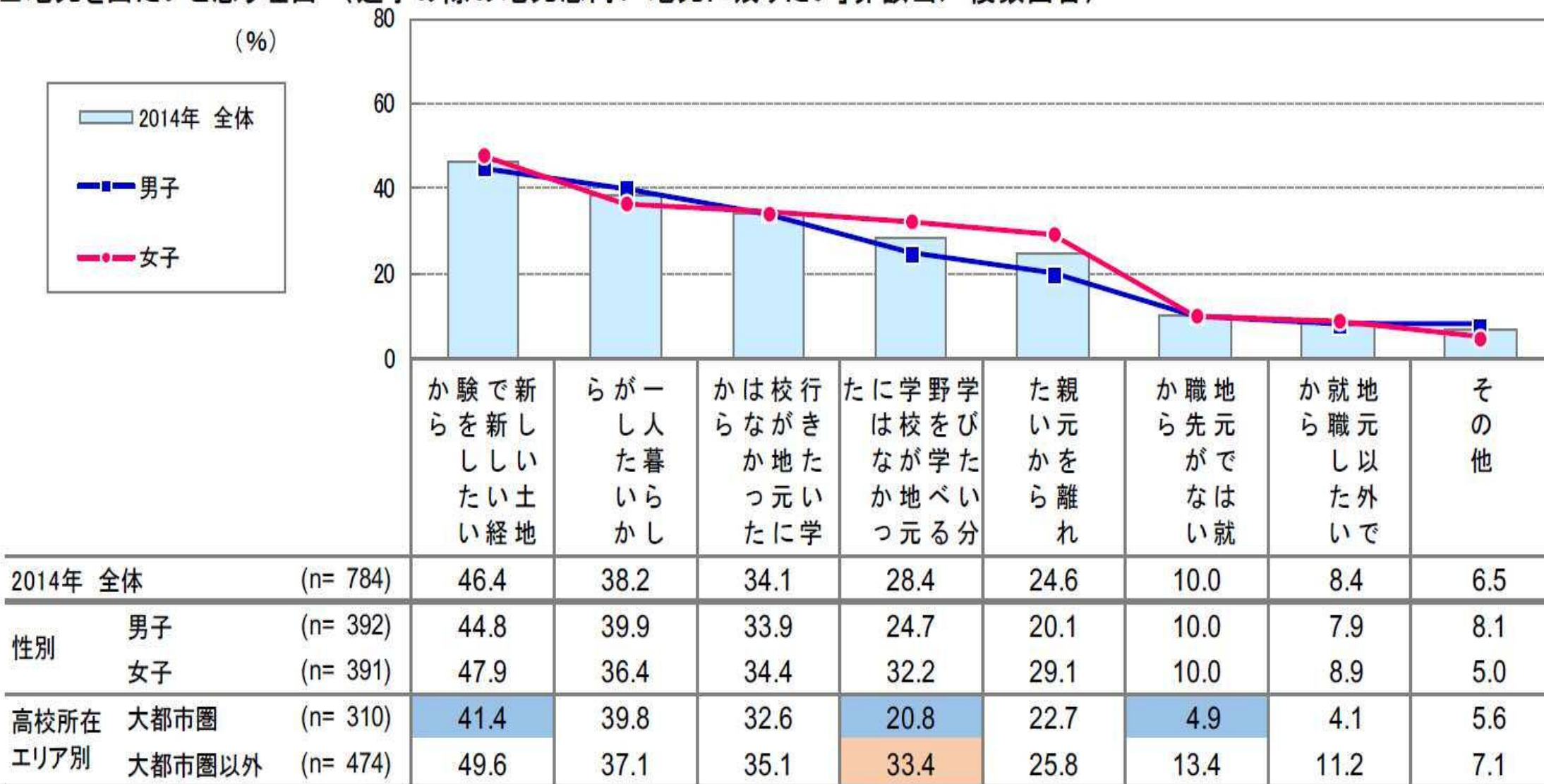
調査年	調査数	残り・計 (%)					無回答 (%)	2016年		2013年		2011年		
		残り		離れたい				残り	離れたい	残り	離れたい	残り	離れたい	
		ぜひ地元に残りたいと思っていた(いる)	できれば地元に残りたいと思っていた(いる)	どちらでも良かった(よい)	できれば地元を出たいと思っていた(いる)	ぜひ地元を離れたいと思っていた(いる)		残り	離れたい	残り	離れたい	残り	離れたい	
進学者全体 (2016年)	3844	32.6	14.1	21.3	9.7	8.9	13.3	46.7	18.6	-	-	-	-	
進学者全体 (2013年)	4250	32.0	17.3	22.2	9.6	8.4	10.4	-	-	49.4	18.0	-	-	
進学者全体 (2011年)	9681	30.9	15.6	24.2	11.3	8.9	9.0	-	-	-	-	46.5	20.3	
高校所在エリア別	北海道	146	20.5	9.6	33.6	12.3	11.0	13.0	30.1	23.3	37.1	29.6	33.7	33.2
	東北	276	18.1	14.5	21.7	18.1	19.2	8.3	32.6	37.3	34.2	27.9	-	-
	北関東・甲信越	366	19.4	14.5	22.4	18.3	15.8	9.6	33.9	34.2	37.0	28.3	34.3	32.4
	南関東	1106	47.3	14.0	17.2	3.7	16.0	61.3	5.5	65.1	5.8	56.5	8.8	
	東海	465	31.0	13.1	23.2	9.9	9.2	13.5	44.1	19.1	46.1	19.8	43.6	21.2
	北陸	84	18.7	10.7	25.0	14.3	22.6	10.7	27.4	36.9	35.0	35.0	31.1	34.9
	関西	737	37.7	17.4	20.1	5.3	6.5	13.0	55.1	11.8	55.6	11.7	55.0	12.3
	中国・四国	284	18.7	14.1	23.9	16.2	14.1	13.0	32.7	30.3	31.4	33.9	32.6	38.3
	九州・沖縄	365	23.6	11.8	24.4	15.1	11.5	13.7	35.3	26.6	38.8	26.1	34.5	35.5
	大都市圏	1954	43.9	15.1	18.5	4.5	3.7	14.3	59.0	8.2	61.2	8.5	56.3	10.0
	大都市圏以外	1675	20.9	13.2	24.2	15.3	14.2	12.2	34.1	29.5	37.2	27.7	35.0	32.5

リクルート「進学センサス」より

【現状】 地元を出たい理由は

- ◆ 大都市圏では、新しい土地で新しい経験をしたい
- ◆ 大都市圏以外では、学びたい分野が学べる学校がない

■ 地元を出たいと思う理由（進学の際の地元志向：「地元に残りたい」非該当／複数回答）



※「全体」の降順

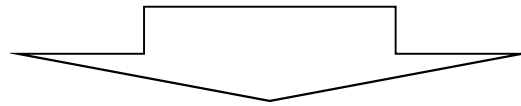
100.0 「全体」より5ポイント以上高い

100.0 「全体」より5ポイント以上低い

【現状】 求人倍率は、中京圏全体が高い⇒強い人手不足感

No.	都道府県	倍率	No.	都道府県	倍率	No.	都道府県	倍率
1	東京	2.07	17	熊本	1.58	33	山梨	1.36
2	福井	1.98	18	宮城	1.57	34	栃木	1.35
3	富山	1.85	19	静岡	1.56	35	滋賀	1.32
3	愛知	1.85	19	愛媛	1.56	36	兵庫	1.30
5	石川	1.84	21	新潟	1.52	37	佐賀	1.29
5	広島	1.84	21	福岡	1.52	38	埼玉	1.26
7	岐阜	1.83	23	京都	1.50	39	千葉	1.25
8	岡山	1.75	24	茨城	1.48	40	青森	1.24
9	香川	1.70	25	山口	1.46	40	和歌山	1.24
10	長野	1.68	26	福島	1.43	40	鹿児島	1.24
10	鳥取	1.68	26	大分	1.43	43	神奈川	1.20
12	三重	1.64	28	岩手	1.40	44	長崎	1.19
13	島根	1.63	28	徳島	1.40	45	高知	1.18
14	群馬	1.61	30	宮崎	1.39	46	北海道	1.13
15	山形	1.60	31	秋田	1.37	47	沖縄	1.08
16	大阪	1.59	31	奈良	1.37			

- ◆ 今後10年でみると、中京圏は、全国的に若者の人口減少割合は全国より緩やか
- ◆ それでも、1割以上は減少する
- ◆ 若者を育成する高等教育機関への進学状況は、愛知県と他の県で大きな差
- ◆ 中京圏の域内進学率は、全国的にも非常に高い（静岡は多くが東京圏へ流出）
- ◆ 一方、他地域からの流入は多くない（一部北陸から流入）
- ◆ 地元以外に進学する理由は、「新しい地域体験」「学びたい分野の学校がない」
- ◆ 有効求人倍率は、地域全体で高く、人手不足感が高い



- ◆ 大都市圏以外の地元進学を高めるためには、地域での学びたい分野の学部・学科・コース等を充実させることが必要
- ◆ 中京圏以外からの流入が少なく、域外へのリクルーティングが課題
- ◆ 域外からの流入を増やすには、学ぶ場だけでなく、中京圏で積極的に新しい経験をしたいたと思わせることが重要
- ◆ 有効求人倍率が高いということは、企業に活気があり、就職の場が沢山あるということ
- ◆ 若者を引き付けるためには、東京本社に就職だけでなく、働く場としての中京圏の魅力の発信が課題（新卒・U・I・Jターン）